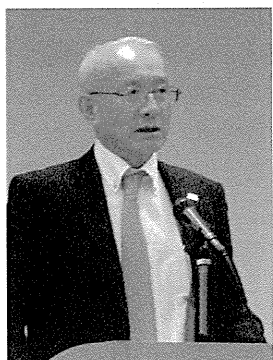


○ 石垣牛流通協議会が総会、今期の出荷目標は 1,100~1,200 頭 出荷頭数の増加に応じたプロモーション活動を強化へ

石垣牛流通協議会(植村光一郎会長・㈱ニイチク監査役)は 20 日、東京都千代田区の都道府県会館で 2025 年度総会を開き、24 年度事業報告、25 年度事業計画・収支予算などの議案を原案通り承認した。任期満了に伴う役員改選では、植村会長、笹英典副会長(㈱エムアイフーズスタイル執行役員商品統括本部長兼商品部長)ら理事・監事、事務局全員が再任された。25 年度事業計画では、前年度に引続き①共同生産出荷に関する協議②流通、販売の検討・実施③トレーサビリティ検討委員会④啓もう活動⑤地産地消支援事業の参加⑥生産拡大委員会⑦SDGs 研究会の参加——に取り組む。

この日の総会には、来賓のほか、沖縄から石垣牛肥育部会の仲大盛吉幸相談役や J A おきな



なわの前田典男代表理事長らが参加し、協議会会員らと交流を深めた。開会に当たって植村会長(=写真)は、「石垣牛の生産は順調に進んでおり、前々期が 800 頭、前期が 1 千頭の目標を掲げて進めてきたが、前期実績は 950 頭とほぼ

計画通りとなった。今期は 1,100 頭~1,200 頭の目標を持って生産に当たっていただけてことで、首都圏の販売もいっそう販売促進を強力に進め、消費者へのプロモーション活動を展開していきたい。販売店の皆さんには、石垣牛だけでなく、地域で生産される農産物も組み合わせ『石垣フェア』のような形の販促もやっていただけないかと思っている。とにかく、価格というものは、需要と供給でバランスを取らなければ、きちんとしたブランド化は実現することができない。価格の維持、これには需給関係が大切となる。今期、生産者から 1,100 頭~1,200 頭という出荷目標が掲げられている以上、我われの販売もそれに応えるような形で販売体制と需要の掘り起こしをしていかなければならない」と会員への協力を呼びかけた。

そのうえで、「一般的な量販店では、見せる

商品と発売するメインの商品、お客を呼び込むための特売商品という形の 3 つのジャンルがある。しかし、当協議会の理事または会員の販売店は、さらに“育てる商品”というジャンルを持っている。これからも、新しいものを育てていくことで消費者に喜びを与えていただきたい」とあいさつした。

来賓では、石垣市の中山義孝市長のあいさつ文が代読され、「石垣牛流通協議会では、J A 石垣牛の振興と向上を図り、J A 石垣牛のブランド保持、高揚および消費拡大に取り組んでおられることに敬意を表する。石垣市としても、消費が低減している現状で販路開拓は非常に重要な課題であると認識しており、このような状況を打開するため、国内市場における販路開拓にさらに力を入れることを基本としながら、海外市場への輸出にも注力している。近々、八重山食肉センターの改修工事も完了する見込みであり、スムーズな認定取得ができるよう鋭意取り組んでいる。今後も J A 石垣市のブランド価値向上や消費拡大に向けていっそうの連携と努力が求められるため、生産者・加工業者・流通業者そして消費者との協力を深め、J A 石垣牛の魅力をより多くの人々へ伝えていくためにも、皆さんの理解と支援をお願いしたい」と祝辞を述べた。

また、J A おきなわの前田代表理事長は、「24 年度はこれまでの J A 石垣牛の歴史で過去最多の出荷頭数頭を記録し、そのなかでも全国平均を大きく上回る販売単価を維持していることは、日ごろの生産農家の絶え間ない努力に加え、石垣牛を購入していただいている皆さんの販売努力のおかげだ。今年度は、石垣牛肥育部会の目標だった 1 千頭の出荷を達成することが予想されており、J A おきなわとしてはこの頭数と単価を維持できるようなさまざまな取り組みを行いたいと考えている」

「肥育部会には多くの若手担い手がいる。離島ゆえに生産コストが高くなるが、八重山生まれ・八重山育ちの高品質な石垣牛を生産すれば、しっかりと儲かると信じて増頭に励んでいる。しかし、ことしに入り、長らく低迷していた子牛価格が急激な回復傾向にあることから、石垣牛の生産者が肥育から繁殖へ経営

(6 面につづく)

をシフトする可能性も懸念される。1千頭の維持とさらなる増頭のためには、日ごろから再生産が可能な単価での安定した販売先の確保が重要となる。今秋には石垣島と台湾を結ぶ定期航路の就航が予定され、沖縄本島と石垣島のインバウンドも増加傾向にある。また、八重山食肉センターが台湾への出荷が可能と認定された暁には、台湾の業者からの問い合わせも増加し、さまざまなビジネスチャンス

が見込まれると思う。これらのチャンスを生かし、新たな販売先の確保を図る一方、販路確保までには多くの時間を要すると思われる。石垣流通協議会の皆さんには、これまで長く購買してもらい、コロナ時には危機を救っていただいた。1千頭体制の維持とさらなる増頭のために、いまにも増して協力をお願いしたい」と感謝の意を示した。